ご自由におとりください

03-3460-0021
（予約専用番号 9:00～16:30）



下北沢病院 足病だより

Vol.1
2020.Oct.

下北沢病院のミッションステートメント

下北沢病院では、総合的な足病治療の普及と発展を通じて、糖尿病を含む全身の健康に寄与すべく、患者さんを中心としたチーム医療を推進します



P2-5 診療科紹介
理事長、院長挨拶
各診療科紹介

P6-8 看護部紹介

P9 ちょっと病気のはなし

P10-11 リウマチ外来開設！
/ お知らせ

P12 外来診療担当表

診療科紹介



理事長
皮膚科
久道 勝也

アジア初の足の総合病院を創る。私がそう決意したのは2014年のことです。思いに賛同した各分野の足のスペシャリストたちが集まってできた下北沢病院。あれから5年目を迎えた今、足病医療の知識を核に、一人一人ががこれまで研鑽してきたそれぞれの診療科・専門領域の知恵を加え統合し、より広く、深く足の悩みのすべてを解決する病院として進化を続けています。日本における足病総合病院のパイオニアとしての誇りをもって、一人一人の患者様に寄り添った医療をご提供していきます。



院長
形成外科
菊池 守

「足の病院と言われても何をしているのかわからない」と言われた当初から丸4年間。患者さんには「足に困ったら下北沢病院」と言って受診していただけるようになったこと、また周囲の先生方からもお困りの症例をご紹介していただけるまでになったこと、心より感謝申し上げます。外反母趾などの足の変形や骨折といった整形外科領域だけではなく、糖尿病、リウマチなど内科的疾患の方の足の治療や、下肢の動脈狭窄・閉塞による足梗塞の治療、下肢静脈瘤や深部静脈血栓、足の浮腫や潰瘍に加え、膝や股関節、足のしびれの治療のための脊椎外科の診療、足の美容医療まで多くの領域をカバーするに至っています。2019年4月からは「トータルウンドタ来」という足の治らない潰瘍に対し、足の変形や血流障害、内科的疾患など様々な視点から当院の医師全員と看護師、理学療法士、義肢装具士がチームとなって診断し治療方針まで繋げる外来も開始しました。まさにチーム一丸となって足の診療に取り組む当院を象徴する外来となっています。これからも地域の皆様はじめ日本全国の患者様に寄り添っていきたいと思います。

診療科紹介



副院長
血管外科
長崎　和仁

2016年7月より足と糖尿病の専門病院を開設し、おかげさまで5周年目を迎えることができました。これも、皆様からの暖かいご支援とご理解の賜物であると心より感謝申し上げます。
今までに約18,000名の患者様が足の悩みで当院を受診されましたが、うち約80%の患者様が足の痛みを訴えておられました。足の痛みといっても、腱や関節などの運動器疾患が原因のこともありますし、血流障害、爪や皮膚トラブルが原因の方も、またそれらの病態が混在している患者様もいらっしゃいました。“足”を臓器として総合的に教育するシステムが日本の医療において無い中では、整形外科、形成外科、皮膚科、血管外科などの縦割り診療だけでは、見逃されやすい疾患があるのも致し方ないのかもしれません。当院においては、独自の教育システムの下、一人でも多くの足で悩める患者様を救うべく、各科をまたいだ総合的足診療に日々努めております。

麻酔科



寺田　てる美

専門的な手術を安全・スムーズに行えるよう、手術に関わるスタッフ全員で取り組んでいます。活発に意見を出し合い、スタッフの個性が生きるように協力しています。また、周術期管理だけでなく、中央材料室も運営しています。中央材料室では、病院全体で使用する機械の洗浄と滅菌、衛生材料の物品管理を行っています。

非常勤
田島　朋幸（麻酔科）　　手術室麻酔（水曜日）

足病総合センター



足病総合センター
センター長
整形外科
菊池 恭太

足病総合センターを開設して5年目になりました。足の患者様とひたすら向き合った結果一つの確信を得られるようになりました。それはなにかと言いますと・・。

ヒトの顔つきが個々に異なるように「足つき」も一人一人異なっているということです。よく考えれば当たり前の事なのですが以前はこの事実に気づくことができませんでした。とりわけ足はいろんな「足つき」が見られるのです。ゆびの長さ、アーチの強さ、関節の柔らかさ、踵の傾き、などまだまだ他にも。そしてこの「足つき」によって一定の障害パターンが発生していることを実感していますし、これこそが足病診療の原点と考えています。

今後も足専門外来として多職種がチームとなり、適切な診断、履物やインソール、身体機能改善、フットケア、時に手術、など多角的な視点で足診療を行っていきたいと思います。

非常勤

飯村 剛史（形成外科）	足病外来（金曜日午前）
岡部 大地（内科）	足病外来（月曜日午前）
高岡 聡美（形成外科）	足病外来（木曜日午前）
反町 武史（整形外科）	スポーツ整形（水曜日午後 第1,3,5週）
岩波 明生（整形外科）	せぼね外来（金曜日、土曜日午後）
岩瀬 大 （整形外科）	膝外来（木曜日午前 第4週）
磐田 振一郎 （整形外科）	膝外来（水曜日午前 第3週）
福島 健介（整形外科）	股関節外来（月曜日午後（第1週）

糖尿病センター



糖尿病センター長
糖尿病内科
富田 益臣



糖尿病内科
田邉谷 徹也

平素より特別なご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。2016年5月に糖尿病センターを開院し、おかげさまで5周年を迎えることができました。1型、2型糖尿病の患者さんだけではなく足で悩む1,000名近い糖尿病の患者さんが通院していただいております。これも、皆様からの暖かいご支援とご理解の賜物であると心より感謝を申し上げます。世界中で新型コロナウィルス感染症が流行し、糖尿病などの基礎疾患がある人ほど重症化リスクが高いと報告され、受診を控え糖尿病の悪化や治療が遅れるケースもあります。下北沢病院では感染のリスクを最小限にするように心掛けながら、“2つの見える“（持続血糖測定器を用いた“血糖値の見えるか“、足の診察を通した”足の見えるか“）を通して糖尿病や糖尿病の合併症に苦しんでいる方への診療を行いながら、より一層信頼いただける糖尿病センター作りに努める所存です。地域の皆様をはじめ、各地からご来院いただいている皆様におかれましては、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

非常勤

古賀 清子（腎臓内科）	人工透析
沖杉 真理（糖尿病内科）	糖尿病内科外来（木曜日 午前）
武井 眞（循環器内科）	循環器内科外来（木曜日 午後）
青島 朋裕（感染症内科）	

看護部紹介



看護部長
高山ゆかり

当院は、足と糖尿病の専門病院として2016年にリニューアルオープンし、従来の診療科にとらわれず、足を総合的に診断ができる足病総合センターと、足へのリスクが高い糖尿病の患者さまをプライマリーからケアする糖尿病センターとで診療を行っております。私ども看護部では、フットケア指導士や糖尿病療養指導士、弾性ストッキングコンダクター等の資格の取得や、独自のフットケア検定を施行するなど足に特化した専門性の高い看護のために日々、質の向上に努めています。看護に必要なことは知識や技術だけではありません。人を介して提供される看護だからこそ、患者様一人ひとりに寄り添い、心のこもった看護をしてまいりたいと思っております。皆様の100年歩き続けられる足を守るために、看護部一同努めてまいりますので、気になる点や、ご不安に思うことがございましたら、お気軽にご相談ください

各病棟の紹介

一般病棟





一般病棟では、足病で入院加療が必要な方、糖尿病のコントロールが必要な方の治療とケアを中心に看護を行っています。また糖尿病、透析に関する教育・指導やフットケアも行っています。さらに患者さんにより適切な療養生活を送っていただくために、毎週多職種カンファレンスを行い医師・リハビリテーション科・栄養課、透析、医療ソーシャルワーカーとの情報共有や密接な連携をはかっています。また退院指導においては、患者さんのみならず家族も含め、できる限り入院前と同じ生活に戻れるように、また足病の再発を繰り返さないための指導やアドバイスを行っています。
また、下肢切断によるボディイメージの変化や喪失感に伴う不安や悲しみ、受け入れがたい思いに対しても、患者様の思いを傾聴し、共に前向きにリハビリに取り組んでいけるよう、心のケアを大切にしながら看護実践に取り組んでいます。



回復期リハビリテーション病棟

当院の回復期リハビリテーション病棟では、機能回復、動作獲得に向け365日毎日リハビリテーションを提供します。医師をはじめ看護師、ソーシャルワーカーなど多職種スタッフで構成したチームでカンファレンスを行い、患者さまの状態に合わせたアプローチを行います。そして歩行や食事、排泄、更衣、入浴などの日常生活の動作を改善するためのリハビリプログラムを組み、理学療法士、作業療法士と共同でリハビリを提供します。

外来

日本初ポダイアトリー病院として2016年7月に設立されまして、5年目を迎えることとなりました。現在、1日70人～200人程の患者様が来院されるようになりました。外来スタッフとして外来看護師8名・コンシェルジュ6名体制で、外来勤務を行っております。

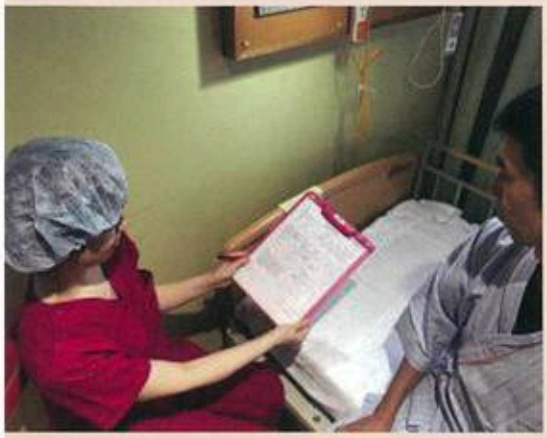
診療科は、整形外科・形成外科・膝専門外来・血管外科・糖尿病・皮膚科があり、2019年からは股関節外来とスポーツ整形外科、2020年からはせぼね外来とリウマチ内科外来、循環器内科外来が新たに開設されました。また、義肢装具外社が3社に増え、さらにパワーアップした外来となりました。

フットケア外来では患者様の足を守るために、情報の提供やケア方法などを医師と連携して行っております。足病変のリスクに応じて定期的にフットアセスメントを行い、早期発見・早期治療を目指して足の観察やケア、セルフケアを行っています。









手術室

2016年8月に新設した当手術センターには、地下1階に2つの手術室があり、白を基調とした明るい室内のバイオクリーンルームとなっています。外反母趾、シャルコー足などの変形矯正や人工関節手術、カテーテルやバイパスなどの血行再建術、リンパ管吻合、皮弁や植皮など、足に特化した疾患を主として、2019年では1,238件の手術を行いました。

現在、麻酔科専門医1名、看護師5名、看護助手2名のスタッフと共に、患者さんが安全・安心できる手術環境を提供できるよう努めています。また、当手術室では全身麻酔で手術を受けられる患者さんを対象に術前訪問を実施しており、手術の説明や情報収集を行い、患者さんに合わせた個別性のある看護を提供するよう努めています。

透析室

現在、当院の透析室では入院透析のみ行っています。ベッドは5床で、入院された方のために2016年より稼働しております。

透析室のスタッフは医師、看護師、臨床工学技士で構成されていますが、それに加え、管理栄養士や薬剤師、病棟の看護師と共にカンファレンスを行い、職種にこだわらず全員で安心・安全な透析療法を目指しております。

当院では足の手術が多く、オペに伴い体重管理や足の保存を考え、足の挙上を禁止するなど、足第一に透析を行っております。



ちょっと病気のはなし

下肢静脈瘤について

血液の逆流をふせぐ静脈弁がこわれると、下肢静脈瘤に…

静脈弁は、立っている時に血液が足の方に戻ってしまうのを防いでいます。弁が壊れると、血液が逆流して静脈内に血液が溜まります。
血液が溜まった状態が何年も続くと、静脈の壁が引き延ばされ太くなり、悪化するとグネグネと曲がりくねった状態になります。この状態が「下肢静脈瘤」です。

どんな治療法があるの？

弾性ストッキングによる圧迫療法と外科的治療があります。生活の支障があるような痛みや皮膚症状がある伏在型静脈瘤に対しては手術治療を考慮します。日帰り手術、入院手術共に対応しております。



気軽にご相談ください

下肢静脈瘤は誰にでもなりえる病気です。来院されればその場で診断可能ですので、ご心配なかたはいつでもいらしてください。



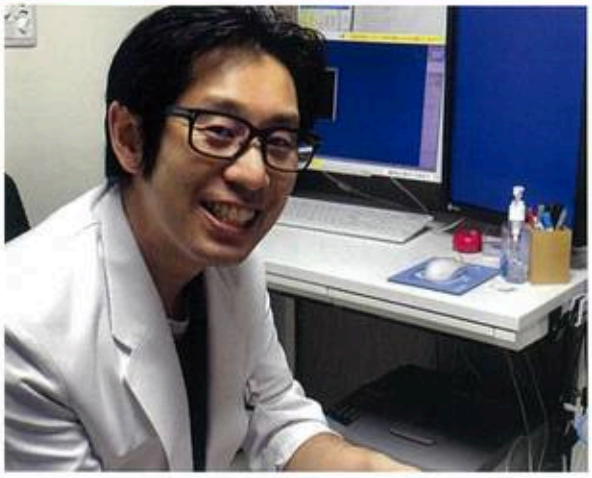
下肢静脈瘤説明動画

下北沢病院

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-8-16
TEL 03-3460-0300（代表） FAX 03-3465-0565

下北沢病院
ホームページ

リウマチ外来開設!! 毎週水曜日 14:00-16:30



担当医：**田邉谷 徹也**

医学博士
日本内科学会認定内科医
総合内科専門医
日本リウマチ学会・リウマチ専門医
日本臨床免疫学会・
免疫療法認定医

対象疾患

関節リウマチを中心に関節痛・関節炎を引き起こす疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、SAPHO症候群など）について診療いたします（線維筋痛症は診療しておりません）。

関節リウマチとは、関節に炎症が起こり、腫れ、痛みが起こる病気です。原因は自己免疫の異常でありますが、実は珍しい病気ではなく、報告にもよりますが日本においては概ね100～200人に1人の割合で発症するとされています。かつては関節の痛みだけではなく、関節の変形、さらにはからだを動かす機能の低下を引き起こす深刻な病気でありました。しかし、近年の目覚ましい治療薬の進歩により、適切な診断のもと的確な治療を行えば、継続した通院治療こそ必要であるものの、病気の活動性を押さえ込み健やかな日常生活を送ることが可能となりました。

治療法

従来の治療に加え、生物学的製剤やJAK阻害薬などを用いた専門性の高い免疫抑制療法を行います。新しい治療薬の登場により、症状を緩和し、関節変形を防ぐことは難しくなくなってきました。ご高齢な方や臓器障害をお持ちの方では相性の悪い薬もあるため、副作用についてもよくご説明し、安全で最適な治療をご提示いたします。

足の症状にも寄り添います

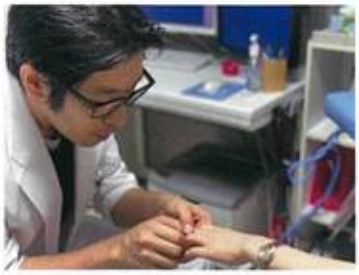
代表的な症状が手首や手指の疼痛であるため、足の症状や変形後のケアは見逃されがちです。当院では足の専門病院の特徴を生かし、足の診療や靴の最適化にも力を入れていきます。

大切なのはタイミングとスピード感!!

早期から治療を開始するほど治療成績が良いのですが、様子をみているうちに大切な治療のタイミングを逃してしまう方も珍しくありません。診断が難しいこともあり、ご心配な方はお早めにリウマチ専門医の診療を受けてみて下さい。当院では問診・身体診察・血液検査・画像検査などを組み合わせて、よりスピーディーに精度の高い診断をするよう心がけていきます。

※こんな方はご相談ください

ひょっとしたら関節リウマチかもしれない
関節リウマチかどうか、診察や検査を受けたい
関節が腫れて痛い
世田谷区でリウマチ専門医による関節リウマチ治療を受けたい
すでに足が変形してしまったがより苦痛なく歩けるようになりたい



<お知らせ>
新型コロナウイルス感染症対策についてのご案内

新型コロナウイルス感染症対策にかかる寄付へのお礼とお詫びについて

新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、下北沢病院のご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。東京都内外を問わず、様々な方からご寄付をいただいております。皆様からの温かいご支援、誠に感謝いたします。ご寄付いただきましたものにつきましては、当院での医療等に有効活用させていただきます。

また、面会制限や出入口の利用制限、正面入口での問診・検温など、ご利用の皆様に大変ご不便をおかけしてますことをお詫び申し上げます。

今後も新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、地域の皆様の健康を守る為に努力してまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

術前PCR検査実施について

下北沢病院には、様々な疾患による重症の患者さん、免疫力が低く感染症にかかると重篤化しやすい患者さんも多く入院しております。そのため院内の患者さんへの感染を防ぐことが重要となります。また医療機能を維持し当院の役割を果たすためには、職員への感染を防ぐ必要もあり、感染対策を強化しております。当院では、全身麻酔下の手術と医師が必要と判断した手術を受ける患者さんに対して、入院前にコロナPCR検査を受けていただいております。検査の受け方に関しましては、入院が決まりました段階でご説明いたします。患者様自身が感染した状態で手術を行った場合、術後の病状への悪影響が報告されていること、そして医療スタッフへの感染の可能性があるためです。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

外来担当医表

診療科		月	火	水	木	金	土
AM 9:00 - 12:00	足病総合センター	菊池（恭） 岡部	菊池（恭）	長崎 膝外来（第3週）	菊池（守） 膝外来（第4週）	菊池（守）（第1,3,5週） 菊池（恭）（第2,3,4,5週） 飯村 皮膚科外来 久道	交代制 足の美容（第1,3,5週
	糖尿病センター	田邉谷	富田	富田	沖杉	田邉谷	田邉谷（第1,3週 富田（第2,4週
PM 14:00 - 17:00	足病総合センター	岡部 股関節外来（第1週） フットケア	菊池（守） 長崎（第1,3週） トータルウンド外来（第2,4,5週）	富田 スポーツ整形（第1,3,5週）	膝外来	長崎 皮膚科外来 久道 せぼね外来（第1,3週） むくみ外来（第2,4週）	足の美容（第1,3,5週 せぼね外来（第2,4週 足の見えるか検診（第1,3週
	糖尿病センター	足の傷外来		富田 リウマチ外来	循環器内科		

トータルウンド外来：難治性足部潰瘍に対して、形成外科、血管外科、整形外科、糖尿病内科、リウマチ内科の各ドクターと、看護師、理学療法士、装具士が、同時に診察する外来です。多数の診療科を渡り歩くことなく、早期の診断や治療方針の決定に役立つと考えております。